

政権交代期の中国：胡錦濤時代の総括と習近平時代の展望

平成25年3月



公益財団法人日本国際問題研究所
The Japan Institute of International Affairs

は し が き

本報告書は、当研究所が平成 24 年 4 月より 1 年間にわたって実施した研究プロジェクト「政権交代期の中国：胡錦濤時代の総括と習近平時代の展望」の成果をまとめたものです。

2012 年 11 月、中国共産党第 18 回全国代表大会において 10 年間にわたる胡錦濤政権期が終了しました。この間中国は GDP を 2.5 倍に上昇させ、経済規模（GDP）で世界第 2 位に躍進しました。同時に、経済成長率を上回るスピードで国防費を増大させ続けたことにより、軍事的にも地域に大きな脅威を与えうる力を持つに至っています。

では、このように国際社会への影響力を格段に増大させた中国を胡錦濤政権より引き継ぐことになった習近平政権は、様々な対内的、対外的課題に対処しながら、中国をいかなる方向に導くことになるのでしょうか。その対処の方法と帰結が日本を含む周辺諸国に与える影響を考えれば、新政権下の中国の動向を展望すること、少なくともそれを展望していくために有効な「視座」を獲得することは、喫緊の研究課題といえます。

この課題に取り組むうえで、本プロジェクトがとりわけ重視したのは、「胡錦濤時代」の十分な検証を踏まえた上で「習近平時代」を展望することです。中国の政策が、トップリーダーの信条や行動傾向の反映ではなく、国際環境や国内の社会経済情勢の従属変数としての性格を強めている現在、胡錦濤政権が直面した様々な国際的、国内的課題は、習近平政権の政策形成にも決定的な影響を及ぼすことになると考えられるからです。本報告書に収められた各論文は、このような問題関心から行われた 1 年間にわたる研究の成果です。

ここに表明されている見解はすべて個人のものであり、当研究所の意見を代表するものではありません。しかし、このような成果が、日本の正確な対中認識とそれに基づく戦略的な対中政策に資することを心から期待するものであります。

最後に、本研究に積極的に取り組まれ、報告書の作成に尽力いただいた執筆者各位、ならびにその過程でご協力いただいた関係各位に対し改めて深甚なる謝意を表します。

平成 25 年 3 月

公益財団法人 日本国際問題研究所
理事長 野上 義二

研究体制

主査：	高木 誠一郎	日本国際問題研究所研究顧問
委員：	大橋 英夫	専修大学経済学部教授
	太田 宏	早稲田大学国際教養学部教授
	菱田 雅晴	法政大学法学部教授
	増田 雅之	防衛研究所地域研究部北東アジア研究室 主任研究官
	毛利 亜樹	筑波大学人文社会系助教
	渡辺 紫乃	埼玉大学教養学部准教授
委員兼幹事：	角崎 信也	日本国際問題研究所研究員
担当助手：	松井 菜海	日本国際問題研究所研究助手

目 次

エグゼクティブ・サマリー	1
総説 胡錦濤政権の到達点：習近平政権の初期条件	高木誠一郎…………… 5
第一章 中国経済の持続的成長と「二つの罌」	大橋英夫……………19
第二章 農村「群体性事件」の構造分析	角崎信也……………35
第三章 胡錦濤政権期のエネルギー政策過程 —政府、共産党、三大石油会社と「石油派」—	渡辺紫乃……………59
第四章 胡錦濤政権期の中国外交 —「韜光養晦、有所作為」をめぐる議論の再燃—	増田雅之……………79
第五章 胡錦濤政権の国防政策 —軍事ドクトリンの展開における位置づけ	毛利亜樹……………97
第六章 グローバル・ガバナンスと中国 —胡錦濤時代と国際公共財のガバナンス—	太田宏……………113
第七章 習近平“チャイナ・セブン”の選出過程： 正統性は確保されたか？	菱田雅晴……………135